

積算四方山話②⑥

PAQSの思い出

野呂 幸一

元 公益社団法人日本建築積算協会 会長

<筆者略歴>

1941年東京神田生まれ。1964年早稲田大学建築学科卒業後、大林組入社、本店（大阪）建築部積算課勤務。コンピュータの利用研究に着手、その後システム部門（東京）に転勤し、積算プログラムを起点に概算精算見積、原価管理、現場システム、施工図CAD、維持保全、企画プレゼンなどの開発に従事、情報ネットワーク、EDI、AI、CGなどの利用研究。1999年退社後、JCC総研設立、中堅・中小ゼネコンの情報化支援、クラウドシステム、e-ラーニングソフトの開発、IT教育にも尽力。

PAQSとは

PAQS（The Pacific Association of Quantity Surveyors：太平洋積算士協会）は、アジア及び太平洋地域の積算技術者の組織であり、1カ国1団体で構成されている国際的な協会である。

現在は、日本、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、香港、マレーシア、中国、インドネシア、フィリピン、ブルネイ、スリランカ、カナダ、南アフリカ、韓国、フィジーの14カ国15団体が加盟している。

また年に1回、各国持ち回りで国際会議を開催し、会議の前半では理事会があり、運営方針などが協議されるが、後半は2日間、分科会に分かれて多数の論文が発表されている。

昨年は、マレーシアで開催されたが、日本建築積算協会（以下、「積算協会」という）からは11名（うち3名が女性）が参加し、2名が論文発表を行った。

今年は、第27回目の会議が8月にブルネイで開催される。

PAQSの誕生経緯

1990年代に入ると、社会や経済のグローバル化が急速に進み、ビジネスの規模が拡大し、国を越えた仕事が増えてきた。環太平洋地域で活躍するQS（Quantity Surveyor：積算士）は、国際的な仕事が増え、他国のQSとの協力が求められるようになり、国際的な協会の必要性について議論を始めた。

1994（平成6）年5月、オーストラリアとニュー

ジーランドのQS組織は、日本、香港、シンガポールのQS組織に呼びかけ、5カ国の代表者が、西オーストラリアのフリーマントルに集まり、グローバル社会におけるQSの役割について意見交換を行った。その結果、各国のQS活動を発展させるためには、国際的なQS組織が必要との結論に至り、名称をPAQSとして組織の設立を進める基本合意書に署名した。日本からは、積算協会の当時の会長である徳永勇雄氏が参加し、署名している。

翌年の1995（平成7）年5月、オーストラリアのQS組織は、クイーンズランドのゴールドコーストで5カ国による会議を開催し、PAQS設立の準備のために、定款などを作成する作業部会を発足させた。

翌々年の1996（平成8）年5月、香港で作業部会の報告が討議され、ニュージーランドが作成した定款が正式に承認され、PAQSがようやく発足することになった。

PAQSの設立までに3年以上の準備期間を要したが、この間にマレーシアが参加することになり、1997（平成9）年6月、6カ国による第1回のPAQS会議がシンガポールで開催された。

PAQSの誕生には、オーストラリアとニュージーランドのQS組織の尽力が大きかった。

RICSに対抗してPAQSを設立

私は、第2回目の会議から、第12回目の会議まで11年間、毎年連続してPAQSに参加した。

初めて参加した時は、何が何だか分からず、お

たおたしていたが、同行してくれた佐藤隆良さんの助けを得て、何とか会議のスケジュールをこなすことができた。

佐藤さんは、大学卒業後、イギリスの地方公共団体やコストマネジメントコンサルタント事務所に8年間在籍し、帰国後、(株)サトウファシリティーズコンサルタンツを設立し、国内外プロジェクトの建設コストマネジメントを中心に、幅広いコンサルティングを手がけていた。また、積算協会では、理事として各種の協会事業に力を尽くしてくれていた。英語が堪能だけでなく、国際的なQSの活動をよく理解しており、PAQSの設立背景なども解説してくれた。

佐藤さんの話によれば、PAQSの母体は、ICEC (International Cost Engineering Council : 国際コスト工学評議会) のリージョン4とのことだった。

ICECは1976年に設立され、現在、100カ国以上で10万人以上のコストエンジニアとプロジェクトマネージャーが参加し、世界を次の四つの地域(リージョン)に分けて活動を展開している。

- ・リージョン1 北米及び南米
- ・リージョン2 ヨーロッパ
- ・リージョン3 アフリカ
- ・リージョン4 アジア太平洋

PAQSは、リージョン4のアジア太平洋地域に属する国が対象となっているとのことだった。

また、QSの団体としては、RICS (Royal Institution of Chartered Surveyors : 王立チャータード・サバイヤーズ協会) が有名だが、実際にRICSのQSとして仕事を行うには、守らなければならない制約があったり、RICSの年会費や資料代などの経費が高かついたりして、アジア太平洋地域のQSからは評判がよくなかった。

そこで、RICSに対抗して、費用のかからない活動しやすいPAQSを設立したとのことであった。

海外メンバーは、お世辞と冗談がお好き

PAQSの国際会議は、連日会食などのパーティが開催され、ここで参加者同士のコミュニケーションが図られている。

初めてPAQSの会議に参加した時、歓迎パーティで6人掛けのテーブルにつくと、前の席にICECの事務局長夫妻が座っていた。夫人は、大変チャミングで私の拙い英語にもニコニコして付き合ってくれていたが、その時突然、「あなたはムービースターみたいですね」と夫人から言われ、ビックリしたことがあった。

毎年参加しているうちに、顔見知りも増えていった。1年ぶりに会うと、必ず私や家族の近況を聞き、少々オーバーなお世辞を言う。後で分かるのだが、これはお世辞でなく、冗談なのだ。

国際会議は、連続参加して価値あり

国際会議は、毎年参加することに意義がある。

各国の中核メンバーは、毎年同じ人が連続して参加し、発言力を高めていた。彼らは、会食時や会議の合間に雑談し、お互いに情報交換を通して理解を深め、会議を円滑に進めていた。

私も、2回3回と参加していくうちに、いつも同行してくれた佐藤さんの紹介もあって何人かのメンバーと親しくなった。彼らは、大変フランクでマナーがいい。また海外との交流が多いためか、異なる国や文化に対して柔軟に対応する能力に長けていた。

継続して参加することによって、お互いに人間性や価値観を理解し、お互いの絆を深めて初めて、忌憚のない意見を交換できるということを学んだ。

PAQSが日本での開催を要望

2000(平成12)年6月、オーストラリアのケアンズで第4回のPAQS会議が開催された時、2年後の第6回は、日本で開催できないかとの要望を受けた。そこで帰国後、積算協会の当時の会長である長倉康彦氏に相談したところ、「やろうじゃ

ないか」と言ってくれた。その後、積算協会の理事会で正式に承認され、第5回のPAQS会議で日本での開催を了承したことを報告した。

しかし、PAQSの会議では、日本での開催を危ぶんでいたのか、「第6回はオーストラリアのメルボルンで開催することにしたので、第7回でお願いしたい」とのことだった。

1年の延期は、何ら問題はなかった。むしろ準備期間が長くなり、歓迎すべきことだったが、これが後に大変なことになってしまった。

日本で初めてのPAQS会議を開催

2003（平成15）年6月、日本で第7回のPAQS会議が開催されることになった。しかし、前年の11月に中国でコロナウイルスのSARSによる感染が発生し、瞬く間に各国に拡大していった。

海外のPAQSメンバーからは、SARS感染を心配し、PAQS会議の中止や延期について意見が寄せられた。1年開催が遅れたことによって、こんな目に遭うのかと恨めしく思った。

当初、積算協会は中止の方向に傾いていたが、佐藤さんからの熱心な説得もあり、とりあえず11月に延期して様子を見ることにした。

結果は、夏頃にSARSの終息が見えてきたこともあり、無事に開催することができた。

自力で国際会議開催に挑戦

「2,000万円赤字になるそうです」

実は、積算協会は、PAQS会議を開催することになったが、これまでに国際会議を開催した経験がなく、どうしたらいいのか分からなかった。

そこで事務局は、専門のイベント会社に相談し、イベント会社から、国際会議を実施するための運営方法や組織、更に様々な作業についての説明を受けていたが、最終段階で経費の見積額が提示された。

「えっ、そんなに赤字なのか。どうするんだ」と尋ねると、「こういう場合は寄付を集めます」と言う。2,000万円の寄付はとても集められる額

ではないと思いながら、とりあえず見積書を見ることにした。見積書には、運営組織毎に必要な作業が細かく列挙され、必要な費用が計上されていた。そして、ほとんどの作業は、イベント会社が請け負って行うようになっており、このイベント会社の請負作業の費用を合計するとちょうど2,000万円になることが分かった。

「赤字だという2,000万円は、イベント会社へ払う金じゃあないか。それなら自分たちだけで何とかやれば赤字にはならない」と事務局に言って、イベント会社への依頼は断り、自力で開催することにした。

そうは言っても現有の事務局では限界がある。そこで国際会議の経験があり、英語が得意な女子職員を1名雇い、主に海外メンバーとの対応などに当たってもらうことにした。

東京国際フォーラムで開催

PAQSの会議は、参加登録料で賄うことが基本となっていた。参加登録料は、主催国の裁量に任されており、日本での開催は3万円とした。参加者を200名ぐらいとすると、500～600万円ぐらいの費用で運営することになる。最もかかるのが会場費であり、会場の選定が肝要だった。

すぐに思いついた会場は、数年前に竣工した東京国際フォーラムだった。この建物は、旧都庁舎を解体して跡地に建設され、国際公開コンペによって米国のラファエル・ヴィニオリが設計した。ガラスの吹き抜けホール（ガラス棟）は「船」を題材にしており、その巨大な外観とともに、船の骨格のような構造を露出した内部は感動的であった。最高の会議場であったが、使用料が600万円を超すことが分かり、諦めなければならなかった。そこで、都心のホテルを調べたが、どこも400万円以上かかり、何とか安い会場を見つけなければと焦った。しかし、簡単には見つからなかった。

ところが、半年ぐらい経った頃、事務局から思わぬことを聞かされた。「東京国際フォーラムの利用料が10分の1ぐらいになった」と言うのだ。

「えっ、本当か」信じられない私はすぐに東京国際フォーラムに直接行って確かめた。すると間違いなく安くなっていた。都知事が代わり、利用率の低い都の運営する施設の利用料金が一斉に引き下げられたとのことだった。

その後、東京国際フォーラムの平面図を取り寄せ、参加者全員が出席する大きなホールや理事会を行う会議室、更に分かれて論文を発表する複数の会議室などを検討して予約した。

次に決めなければならないのが、会食を行うパーティ会場であるが、これは東京日比谷の松本楼など一流の店を選定した。

当初は、日本での開催に懐疑的

PAQSの主要なメンバーは、当初、日本の積算協会の情報を正しく聞かされていなかったこともあり、日本での開催に懐疑的であった。更にSARS騒ぎで延期されたこともあり、不安な気持ちもあったようだった。

しかし、会議の運営や進行が予定どおり適切に行われ、会議場や会食場所の設定にも十分に満足されて、初めての国際会議は、事務局の大変な奮闘もあり、成功裡に終わることができた。

深まる友好

PAQSの会議を成功裡に終えた日本は、PAQSメンバーから確固たる理解と信頼を得ることができた。更に2005（平成17）年、佐藤さんがPAQSの会長に就任し、PAQSにおける日本の存在感は一段と増した。これは、佐藤さんの長年にわたる活躍が大いに貢献したと言えよう。

PAQSのメンバーは、時々日本を訪れることがあり、その都度、積算協会は会食会などを開いてもてなした。

今強く思い出すのは、香港から10名ぐらいのメンバーがやってきた時のことである。彼らは、会食後、新宿の歌舞伎町に行きたいと言う。夜も9時を過ぎており、治安の悪い歌舞伎町は止めた方がいいと言ったが、どうしても行きたいと言う。

そこで仕方なく、私の知り合いが経営しているミュージックサロンへ案内した。

このサロンは歌舞伎町の奥にあり、周辺では怪しげな人たちが行き来している。香港のメンバーは、治安環境の悪さなど一向に気にせず、サロンで演奏される音楽と酒に酔い、時間が経つとサロンのホールで踊りまくり、サロンを出る時は深夜12時を回っていた。歩いて移動するのは危険だと思い、タクシーを店の前に呼び、急いで乗って、何とか無事に帰ったのだった。

そのほかに、個人的に来日したメンバーと一緒にゴルフをしたり、東京の老舗で食事を楽しんだりもした。

PAQSは、会議だけでなく、加盟国のメンバーとの個々の国際交流も友好を深める上で意義があった。

PAQS-Iwata Foundation岩田賞

岩田賞は、積算協会の会員である岩田利之氏を讃えてPAQSが設定した賞である。

岩田氏は、1914（大正3）年生まれで、1954（昭和29）年に積算事務所を開設し、積算協会の設立時から本支部の役員や委員会委員を歴任し、積算協会の発展に尽くしてくれた。

彼は、若い人を連れて飲みに行くことが好きで、私も若い頃はよくご馳走になった。また写真が趣味とのことで、いつも重たそうなカメラを肩からぶら下げていた。PAQSの発足時には既に80歳を超えていたが、毎年参加され、90歳を超しても海外のメンバーと楽しそうに交流されていた。2014（平成26）年に亡くなられ、享年100歳だった。

PAQSのメンバーはその高齢に驚き、2008（平成20）年、若手のQSの専門能力の開発を促進することを目的に基金を設立した際、この名称を岩田氏に敬意を表してPAQS-Iwata Foundationと名付け、PAQS加盟国の若い会員のための論文コンテストを実施し、最も優れた論文に岩田賞を授与している。